



International exchange 国際交流レポート

福岡歯科大学では、学生時代に広い視野と豊かな国際感覚を身につけるべく、アジアやカナダの提携大学と活発な交流を行っています。昨年度も提携大学からの学生訪問団を受け入れ、本学で研修・国際交流を行いました。今年も昨年10月に学術交流協定を締結したリバプール大学(イギリス)をはじめ、4カ国5大学に学生訪問団が赴き、各国の文化や歯科医療の教育現場、臨床現場を学ぶことができました。



Korea

慶熙大學校歯科大学

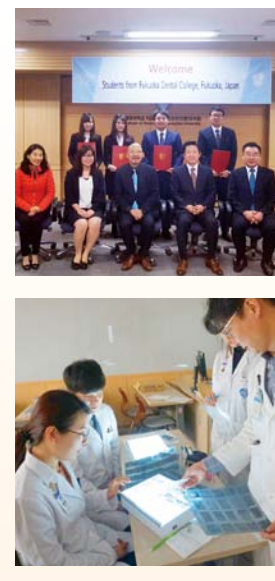
(3月12日~3月18日)

引率教員：香川 豊宏(画像診断学分野 准教授)
加地 千晶(障害者歯科学分野 助教)
派遣学生：松原 勲・江頭 優希・岡村 梓・拝形 祐登

国境を越えて学んだ貴重な経験
江頭 優希 (第6学年)

この春私達は、慶熙大學校歯科大学への海外研修に参加させて頂きました。慶熙大學校歯科大学は約50万㎡もの広大な敷地に24の学部を持つ私立大学です。博物館や、ノートルダム大聖堂を連想させるような講堂など日本の大学ではなかなか目にするような様々な施設がありました。私達は慶熙大學校の学生さんと一緒にキャンパス及び病院見学、教授の特別講義を受けました。

いつもと違う環境に戸惑い、緊張していましたが学生が皆さんがコミュニケーションを取ろうと積極的に話しかけてくれ、いつしか緊張も取れ多くの意見を交換することが出来ました。日本と韓国の治療の違いを直に目で見て、肌で感じ、日本にいただけでは味わうことのできない貴重な体験でした。特に福岡歯科大学にない口腔内科では顎関節症の治療器具などが多く備え付けられており最先端の治療が行われていて感動しました。このような素晴らしい機会を与えて頂いたことに感謝し、この経験を今後の自分の糧にしたいと思えます。本当にありがとうございました。



England

リバプール大学

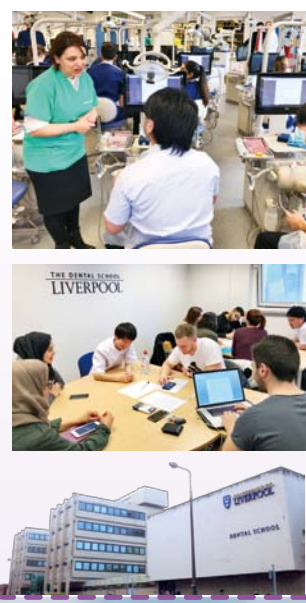
(3月17日~3月27日)

引率教員：坂上 竜貴(歯周病学分野 教授)
派遣学生：東 大貴・福居 朋子・藤本 亮太・森脇 悠太

海外研修を終えて
森脇 悠太 (第6学年)

今年から海外研修先として、イギリスのリバプール大学が加わりました。まだ誰も行ったことがないというところ、そして、ノーベル賞受賞者を数多く輩出している大学であるということ、この2つが私をリバプールへと駆り立てました。大学に着くまでは不安もありましたが、皆さんとても優しく私達を迎え入れてくれ、すぐに馴染むことができました。大学には自ら積極的に学ぼうとする学生達がたくさんいました。私達は病院見学のみならず、その学生達と一緒に実習もさせて頂きました。

病院には、学生が治療を行う学生診療室というものがあり、自分より年下の学生が歯内治療をしていたのには驚きました。実習では、教えたり教えられたりと、有意義な時間を過ごすことが出来ましたし、そこで仲良くなった学生と今ではメールのやりとりもしています。夜は一緒に食事をしたり、ゴルフをしたり、音楽を聴いたり、素敵な思い出も出来ました。いつか「あなたに診てもらえてよかった。」と言っていただけのように、この刺激をもとにさらに頑張ります。



China

中国医科大学口腔医学院

(3月26日~4月1日)

引率教員：畠山 雄次(機能構造学分野 准教授)
川口 智弘(有床義歯学分野 講師)
派遣学生：松嶋 茜・大島 翔・松永 瑛良・龍 太郎

中国医科大学での経験を
大島 翔 (第6学年)

私が今回海外研修に応募した理由は、大学での臨床実習で学んだ知識や経験から福岡歯科大学以外の場所ではどういった違いがあるのだろうか。と思ったことがきっかけでした。私は海外に出た経験が一度もなかったため不安がありましたが思い切って応募し、中国医科大学に行かせて頂けることになりました。

中国医科大学では大学病院やキャンパス、学生実習室を見学し、先生方の診療や学生の実習風景を見て病院のシステムや患者さんとの関係、診療や実習のスタイルなど異なる点が多く毎日がとても刺激的な体験でした。

私はあまり英会話が得意でなく苦心する事が多かったのですが、引率の先生方や同じ班の仲間のおかげでコミュニケーションをとっていききました。

また、中国医科大学の先生方や学生の皆さんが私達をとてもあたたかく迎えてくださり、交流を深めるうちに研修前の不安はなくなり、帰国が近づくにつれ離れがたい気持ちが強くなっていきました。

今回の海外研修を通して、自分にはまだ知識や経験、語学など多くの不足があること痛感することもあり、卒業後自身になりたい歯科医師像が明確にイメージできるようになり、それに向かって成長できる自分になりたいと思いました。



China

上海交通大学口腔医学院

(3月26日~4月1日)

引率教員：平木 昭光(口腔腫瘍学分野 教授)
谷口 祐介(冠橋義歯学分野 助教)
派遣学生：富田 洋喜・星野 行孝・森山 裕輔・山崎 裕典

朋友上海
星野 行孝 (第6学年)

圧倒的な成長を続ける近くて遠い国、中国。その国の中で、およそ二千万人という人口を誇る世界有数の巨大都市「上海」へ、史上初男性だけで構成されたメンバーで、上海交通大学との5日間の国際交流研修の為に向かいました。上海交通大学付属病院(第九人民医院)では歯科患者数だけで年間百万人という、まさしく人海とも形容できる多くの、そして多彩な患者さん達に圧倒されましたが、その治療を懸命にこなしている先生方や寮生活を送りながら勉学に励む学生達と共に語り合うにつれ、医療に対する共通の思いを抱きつつ、我々も負けないと決意しました。最後に、福岡歯科大学と上海交通大学との交流は長年に渡り行われて来ました。9月には上海交通大学から学生達が来福します。私達が受けた歓待は素晴らしいもので、私達もそれを御返ししなければならぬと思います。



Canada

ブリティッシュコロンビア大学

(4月16日~4月30日)

引率教員：山下 潤朗(冠橋義歯学分野 教授)
梶井 貴史(矯正歯科学分野 准教授)
派遣学生：市丸 武道・佐藤 綾子・吉田 瑞姫・白重良

世界の仲間から学んだこと
佐藤 綾子 (第6学年)

私達は、カナダのブリティッシュコロンビア大学(UBC)へ2週間の研修に行く機会を頂きました。UBCではカナダ国外の学生を多く受け入れているため、色々な国の歯科医師を目指す仲間と出会えました。彼らから感じたのは歯学に積極的に取り組む志の高さです。UBCでは、マネキン実習を終えると、続いて患者さんの協力を頂いて実習内容と同じ治療を実践します。そのため学生は、予習やマネキン実習の時点から、緊張感や責任感を持って課題に取り組みます。また、PBL(problem based learning)という学生同士で課題の答えを導いていく授業では、個々で学習してきた知識を持ち寄り発言し合うことで、互いに理解を深められるようになっていきました。そんな歯学への情熱を見て、何事にも自ら行動を起こしていくことが大切だと感じました。彼らが自身の国に持ち帰って世界の人を助けることを目指すように、私も活躍する場所は違っても、自発的に知識・技術を取り入れて多くの人を笑顔にできる歯科医師になりたいです。

